

教育研究業績書

2018年05月14日

所属：生活造形学科

資格：准教授

氏名：末弘 由佳里

研究分野	研究内容のキーワード
生活科学 生活科学一般	生活素材
学位	最終学歴
博士（学術），修士（教育学）	京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 先端ファイブプロ科学専攻 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 第73回NDKファッションデザインコンテスト出品作品の指導	2016年9月	本学（武庫川女子大学）から2名の学生がNDKファッションデザインコンテストに通過し、実物制作を行った。
2. 産学協同事業「産学共同リアル企画」企画及びプレゼン指導	2015年6月	コッカ株式会社による課題「「童話モチーフの雑貨用テキストスタイルデザイン企画」に本学（武庫川女子大学）の学生が7名参加し、企画及びプレゼンテーションを行った。
3. 第70回NDKファッションデザインコンテスト第16回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導	2013年9月	本学（武庫川女子大学）から3名（デザインコンテスト1名、ヤングダイナミックシーン2名）の学生が通過し、実物制作を行った。ヤングダイナミックシーン部門において、1名の学生が大阪市長賞を頂いた。
4. 産学協同事業「産学共同リアル企画」企画及びプレゼン指導	2013年4月	伊藤寛株式会社による課題「秋冬手袋のデザイン企画」に本学（武庫川女子大学）の学生が4名参加し、企画及びプレゼンテーションを行った。
5. 2014「げんべい」ビーチサンダルデザインコンテスト in 西宮阪急—武庫川女子大学×げんべい商店 コラボレーション企画—出品作品の指導	2013年12月	西宮阪急百貨店より依頼を受け、ビーチサンダルデザインコンテストに武庫川女子大学の学生が応募し、その指導を担当した。投票の結果、上位3名の作品が商品化され、2014年3月より、2014年夏物として西宮阪急で販売された。
6. 第69回NDKファッションデザインコンテスト第15回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導	2012年9月	本学（武庫川女子大学）から4名（デザインコンテスト1名、ヤングダイナミックシーン3名）の学生が通過し、実物制作を行った。
7. 産学協同事業「産学共同リアル企画」企画及びプレゼン指導	2012年11月	グロリア株式会社による課題「プリントデザイン企画（レギンス&フットカバー用）」に本学（武庫川女子大学）の学生が2名参加し、企画及びプレゼンテーションを行った。
8. 産学協同事業「産学共同リアル企画」企画及びプレゼン指導	2011年9月	「産学共同リアル企画」とは、企業が大学・専門学校に課題を出し、学生からアイデアを募る取り組みである。株式会社エターナリープレイズによる課題「レディース向け服飾小物類の商品企画」に本学（武庫川女子大学）の学生が3名参加し、企画及びプレゼンテーションを行った。
9. 第68回NDKファッションデザインコンテスト第14回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導	2011年9月	本学（武庫川女子大学）から3名（ヤングダイナミックシーン3名）の学生が通過し、実物制作を行った。ヤングダイナミックシーン部門において、1名の学生がNDK賞を頂いた。
10. 産学協同事業「産学共同リアル企画」企画及びプレゼン指導	2011年11月	株式会社コットンピークによる課題「デニム素材2次加工・製品リメイク企画」に本学（武庫川女子大学）の学生が1名参加し、企画及びプレゼンテーションを行った。
11. 第67回NDKファッションデザインコンテスト第13回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導	2010年9月	本学（武庫川女子大学）から2名（デザインコンテスト1名、ヤングダイナミックシーン1名）の学生が通過し、実物制作を行った。
12. 第66回NDKファッションデザインコンテスト第12回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導	2009年9月	本学（武庫川女子大学）から2名（デザインコンテスト1名、ヤングダイナミックシーン1名）の学生が通過し、実物制作を行った。デザインコンテストに通過した1名は本学の卒業生（2009年3月卒）である。デザインコンテスト部門において、1名の学生がNDK賞を頂いた。
13. 食の祭典「'09食博覧会・大阪」におけるファッションショー「食と色彩」の企画及び制作指導	2009年5月	食にちなんだファッションショー「食育ファッションショー」を企画、デザイン・制作を行い、モデルやアナウンスも全て学生が担当した。生活環境学科の学生が中心となり、47名で作り上げたファッションショーであり、その指導を行った。
14. 第65回NDKファッションデザインコンテスト第11回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導	2008年9月	本学（武庫川女子大学）から2名（デザインコンテスト1名、ヤングダイナミックシーン1名）の学生が通過し、実物制作を行った。
15. 第64回NDKファッションデザイン コンテスト第10回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導	2007年9月	7名（デザインコンテスト2名、ヤングダイナミックシーン5名）の学生が通過し、実物制作を行った。
16. KOBE KIDS FESTA 2007 キッズドリームウェアファッションショー出品作品指導	2007年11月	7名3組の学生が参加し、その制作指導を行った。
17. 第63回NDKファッションデザインコンテスト 第	2006年9月	12名（デザインコンテスト2名、ヤングダイナミックシー

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
9回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導		ン10名)の学生が通過し、実物制作を行った。ヤングダイナミックシーン部門において、2名の学生がそれぞれ大阪市長賞、NDK賞を頂いた。
18. KOBE KIDS FESTA 2006キッズドリームウェアファッションショー出品作品指導	2006年11月	9名3組の学生が参加し、その制作指導を行った。
19. 第62回NDKファッションデザインコンテスト第8回「ヤングダイナミックシーン」出品作品の指導	2005年9月	未来のデザイナーを育成する試みとして、デザイン画を出品し、審査に通過した者が実物の制作を行い、ファッションショーに出品することができるコンテストである。ショー当日公開審査が行われる。9名(デザインコンテスト3名、ヤングダイナミックシーン6名)の学生が通過し、実物制作を行った。
20. KOBE KIDS FESTA 2005 キッズドリームウェアファッションショー出品作品の指導	2005年7月	子どもがデザインした夢の洋服をファッション系の学生が形にし、デザインした子どもがモデルを務める形のファッションショーである。4名2組の学生が参加し、その制作指導を行った。
2 作成した教科書、教材		
1. 武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル教材の開発VI(改訂版基礎縫い)	2016年3月～6月	既に作成した基礎縫いデジタル教材に関して、使用した学生へアンケート調査を行った。また、現職中学校の家庭科教員からの意見を基に再撮影を行い、中身を一新した。布の色、背景色等より見易いものを素材に用いたことや、イラストやテキストへの加筆、画面へのテロップ挿入、音声の再開機能等を付加した。
2. アパレルCAD教育における教材の作成	2016年1月～現在	武庫川女子大学において開講しているアパレルCAD関連科目において使用するテキストの作成を行った。この科目のテキストとして採用可能な書籍は2冊程度出版されているが、いずれも本学のカリキュラム及び学生に即した内容とは言えない。基礎科目からの学びを経て、それらに即した内容で進めることができるよう基礎科目において身につけた内容をベースに複数のアイテムをCAD上で展開できる力を養えるように配慮してテキストを作成した。
3. 武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル教材の開発V(基礎縫い)	2012年9月～2013年7月	武庫川女子大学情報教育研究センター協力の下に学習支援システム(μCam)用の教材を作成した。「基礎縫い」十数種を動画撮影し、音声、イラスト、写真、解説等を加えたものである。学生にとって教科書のみでは難しいと感じる縫い方が基礎縫いの中に存在する。これらを動画で学ぶことで理解を促し、間違いを減らす一助となることを期待し、製作にあたった。
4. 武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル動画教材の開発II(原型製図の方法:スカート編)	2011年9月～2012年4月	「武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル教材の開発I」で作成したパンツに引き続き、スカートにおいても同じくe-learning教材を作成した。パンツ同様に有効な教材であると言え、学生にとって有効な教材として活用されることを期待している。
5. 武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル動画教材の開発I(原型製図の方法:パンツ編)	2011年3月～11月	「パターンメイキングのデジタル教材の開発III」で作成したデジタル教材を基に発展教材として、武庫川女子大学情報教育研究センターの学習支援システム(Mmoa)用の教材を情報教育研究センター協力の下に作成した。パワーポイントを用いて作成したデジタル教材を基にした動画に、音声、各部の名称や拡大図、計算方法の解説等を加えたものである。学生がより理解を深めるための復習、欠席者の指導に有効なe-learning教材として活用することを目的としている。
6. 武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル教材の開発IV(原型製図の方法:袖編)	2011年11月～2012年4月	「武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル教材の開発I・II・III」で作成したパンツ、スカート、身頃原型に引き続き、袖原型においても同じくe-learning教材を作成した。パンツやスカートと同様に有効な教材であると言え、学生にとって有効な教材として活用されることを期待している。
7. 武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル動画教材の開発III(原型製図の方法:身頃原型編)	2011年10月～2012年4月	「武庫川女子大学学習支援システムによるデジタル教材の開発I・II」で作成したパンツ、スカートに引き続き、身頃原型においても同じくe-learning教材を作成した。パンツやスカートと同様に有効な教材であると言え、学生にとって有効な教材として活用されることを期待している。
8. パターンメイキングのデジタル教材の開発I(原型製図の方法:身頃原型編)	2009年4月	被服構成学の講義及び実習の中で、「原型」の書き方を学ぶことが多いが、パターン製図を初めて行う学生にとって、理解に時間を要することが多く、反復しての説明が求められる。これまでは黒板に1.5倍大で書いて説明を行っていたが、同一箇所の再説明を行う際に、デジタル教材の場合には繰り返し提示することが容易である。そこで、power pointを用いて身頃原型の書き方を説明するデジタル教材の開発を試みた。学生からの評価も高く、より理解を促す手段の一つとして活用できると考える。
9. パターンメイキングのデジタル教材の開発II(原型製図の方法:スカート編)	2009年10月	「パターンメイキングのデジタル教材の開発I」で作成した身頃原型に引き続き、スカートにおいても同じくデジタル教材を作成した。学生の理解度が個人個人で異なる中、反復して説明することが容易であるデジタル教材は、学習効果の高いものとして活用できると言える。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
10. パターンメイキングのデジタル教材の開発Ⅲ（原型製図の方法：パンツ編）	2009年10月	「パターンメイキングのデジタル教材の開発Ⅰ・Ⅱ」で作成した身頃原型に引き続き、パンツにおいても同じくデジタル教材を作成した。身頃、スカートと同様に有効な教材であると言える。
11. パターンメイキング教育における教材の作成	2006年04月	被服構成学を学ぶ上で、パターンメイキングは必須内容である。パターンに関しては大学で初めて学ぶ者が多く、学生の理解度は高くない現実がある。そこで、従来使用している文化式身頃原型（1.5倍）を基に、ショルダー、ネック、サイド、ウエスト、バスト位置に切替線を入れ、各パーツ毎に異なるカラーを用いた原型を作成した。これにより、パターンメイキングの基礎が理解できると考える。
12. アパレルCAD教育における教材の作成	2005年04月～2008年3月	現在、被服構成学においてアパレルCAD教育は不可欠なものとなっている。アパレルCADに関する書籍は複数執筆されているものの、東レACS株式会社のシステムにおけるものがほとんどであり、本学が採用しているシステム（株式会社島精機製作所）の解説に値するものは発行されていない。そこで、教科書に代わるCADシステムの手順書を教材として作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 尼崎市小学校家庭科教育研究会 実技研修会	2010年7月	尼崎市立の小学校教員を対象（参加人数：約30名）として、「小学校家庭科教育に役立つ制作活動・実技研修」と題して、被服製作実習の実技研修を行った。手縫いを駆使し、リサイクルで製作することのできるものとの要望があり、フェイスタオルを加工して製作する『洋服型「手拭きタオル」』を提案し、実技指導の講師を務めた。
2. 尼崎市小学校家庭科教育研究会 実技研修会	2009年8月	尼崎市立の小学校教員を対象（参加人数：約30名）として、「小学校家庭科教育に役立つ制作活動・実技研修」と題して、被服製作実習の実技研修を行った。手縫いを駆使して製作することのできるものとの要望があり、針金ハンガーを軸として使い、キルト綿と布を巻きつけ、縫い留めることで製作する「布製ハンガー」を提案し、実技指導の講師を務めた。
3. アパレルCADの説明会	2006年3月	兵庫県立相生産業高等学校の家庭科教員4名を対象としてアパレルCADシステムの説明、講習を行った。高等学校へのCADの導入を検討をしていることから、依頼を受けた。
4 その他		
1. 平成27年度使用尼崎市尼崎双星高等学校教科用図書選定協議会（副会長）	2014年6月～9月	平成27年度使用教科書の選定として、商業学科、ものづくり機械科、電気情報科、普通科それぞれの学科において検討を行った。なお、協議会委員は、元尼崎市尼崎産業高等学校長、尼崎双星高等学校PTA会長、尼崎双星高等学校PTA副会長、尼崎双星高等学校長・教頭・教務部長、末弘の計7名である。
2. 平成26年度使用尼崎市尼崎双星高等学校教科用図書選定協議会（副会長）	2013年6月～9月	平成26年度使用教科書の選定として、商業学科、ものづくり機械科、電気情報科、普通科それぞれの学科において検討を行った。なお、協議会委員は、元尼崎市尼崎産業高等学校長、尼崎双星高等学校PTA会長、尼崎双星高等学校PTA副会長、尼崎双星高等学校長・教頭・教務部長、末弘の計7名である。
3. 平成25年度使用尼崎市尼崎双星高等学校教科用図書選定協議会（副会長）	2012年6月～9月	平成25年度使用教科書の選定として、商業学科、ものづくり機械科、電気情報科、普通科それぞれの学科において検討を行った。なお、協議会委員は、元尼崎市尼崎産業高等学校長、尼崎双星高等学校PTA副会長2名、尼崎双星高等学校長・教頭・教務部長、末弘の計7名である。
4. 平成24年度使用尼崎市尼崎産業 高等学校教科用図書選定協議会（副会長）	2011年6月～9月	平成24年度使用教科書の選定として、商業科、電気科、機械科の3学科において検討を行った。各教科担当者から第一希望・第二希望の教科書が示され、選定理由として、生徒のレベルに合致していること等が挙げられた。なお、協議会委員は、元尼崎市尼崎産業高等学校長、育友会会長、育友会副会長、現校長・教頭・教務部長、末弘の計7名である。
5. 平成24年度使用尼崎市尼崎双星高等学校教科用図書選定協議会（副会長）	2011年6月～9月	平成24年度使用教科書の選定として、商業学科、ものづくり機械科、電気情報科、普通科それぞれの学科において検討を行った。なお、協議会委員は、元尼崎市尼崎産業高等学校長、尼崎産業高等学校育友会会長、尼崎産業高等学校育友会副会長、尼崎双星高等学校長・教頭・教務部長、末弘の計7名である。
6. 平成23年度使用尼崎市尼崎産業 高等学校教科用図書選定協議会（副会長）	2010年6月～9月	平成23年度使用教科書の選定として、商業科、電気科、機械科の3学科において検討を行った。各教科担当者から第一希望・第二希望の教科書が示され、選定理由として、生徒のレベルに合致していること等が挙げられた。なお、協議会委員は、元尼崎市尼崎産業高等学校長、育友会会長、育友会副会長、現校長・教頭・教務部長、末弘の計7名である。
7. 平成23年度使用（仮称）尼崎市尼崎双星高等学校	2010年6月～9月	（仮称）尼崎市尼崎双星高等学校は、平成23年4月開校予

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
教科用図書選定協議会（会長）		定であり、尼崎東高等学校と尼崎産業高等学校とが統合された普通科と専門学科を併設している新しい高等学校である。使用教科書の選定として、各学科において検討を行った。なお、協議会委員は、尼崎東高等学校PTA会長、尼崎産業高等学校育友会会長、尼崎東高等学校長、尼崎産業高等学校長、尼崎東高等学校教頭、尼崎産業高等学校教頭、末弘の計7名である。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 学校図書館司書教諭	2000年12月	第221363号（文部省）
2. 中学校教諭専修免許状 家庭	2000年03月	平11中専修第67号（奈良県教育委員会）
3. 高等学校教諭専修免許状 家庭	2000年03月	平11高専修第84号（奈良県教育委員会）
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 繊維のスマート化技術大系 生活・産業・社会のイノベーションへ向けて	共	2017年12月	株式会社 エヌ・ティ・エス	従来の繊維ハンドブックとは異なる視点で、これからの繊維産業を基盤となる技術を中心にまとめている。今後の繊維技術の開発には、機能性、環境、複合化などのキーワードがあげられ、さらに、テクノロジーブッシュ型の開発と共に繊維産業が創り出す未来社会を描き、マーケットプル型の開発が必要であることから、繊維の機能性の再認識、バイオテクノロジーを含めた新たな技術潮流、スマート社会の実現に貢献する繊維の基盤技術、これからの市場ニーズに対応する技術を集約している。 共著者:全100名、鞠谷雄士、平坂雅男、～中略～、末弘由佳理 (担当部分)「密度が異なる極細繊維のしっとり感」(pp. 105-109)
2. 基礎から応用までの作品集 楽しくスクールソーイング	共	2012年03月	開隆堂出版株式会社 (全p. 87)	中学校・高等学校家庭科の製作実習の授業において、活用できることを目的としている。 被服構成学の専門の立場から、応用・発展に結び付く内容をアドバイスやコラムとして紹介している。 前半には、制作の基礎知識（体の採寸・型紙・裁断・しるしつけ・布の知識・地直し・布と針と糸の関係）、基礎縫い、縫い代の始末、ミシンの使い方について触れ、続いて、20作品の制作過程を紹介している。また、後半部分には、一部作品の学習指導案を掲載した。 共著者:布施谷節子、鳴海多恵子、川端博子、磯崎美、大久保美雪、小田巻淑子、亀井佑子、千葉桂子、大村知子、佐々木貴枝子、薩本弥生、佐藤真知子、柴田優子、末弘由佳理、砂長谷由香、田中百子、知念葉子、中村邦子、若月宣行、渡部句子 (担当部分)「針金ハンガーのリメイク 布製ハンガー」(pp. 24-25)
2 学位論文				
1. 布の風合いにおける「しっとり感」の評価に関する研究	単	2010年03月	京都工芸繊維大学大学院 博士(学術)の学位取得(第564号)	布の「しっとり」の触知覚を風合い評価のひとつとして提案し、「しっとり」の感覚に関係する物性値の抽出を目指した。また、繊維製品は様々な色彩のものがあることから、人間の五感のひとつである視覚の影響が「しっとり」の触知覚にどのような影響を与えるかについて検討した。更に、将来、繊維製品の表面温度を物理的に変化させた際の感覚評価を明らかにするために、エアゾールスプレー試料を用いて瞬時に皮膚を冷やし、皮膚温を瞬時に変化させた時の「しっとり」の知覚について検討した。
3 学術論文				
1. 「被服構成学実習」授業カリキュラムの構築と実践—基礎縫いを中心に—	共	2018年2月	学校教育センター年報 第3号、武庫川女子大学 学校教育センターpp. 165-176 (2018)	「アパレルコンストラクション実習Ⅰ(被服構成学実習の内容)」の授業カリキュラム及び授業実践、特に基礎縫いを中心に論述している。小中高で習得する知識・技術を文献調査し、入学時の知識についてはアンケート調査を実施することで現状を把握する形をとっている。大学において更に知識・技術を定着させるための課題やレポート、その効果について

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2. アパレルCAD授業カリキュラムの構築と実践	共	2017年10月	生活環境学研究 Vol. 5, 武庫川女子大学 pp. 70-77 (2017)	て報告した。 末弘由佳理、山本泉、中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 武庫川女子大学生生活環境学部生活環境学科、同短期大学部生活造形学科アパレルコースで開講しているアパレルCAD関連科目の授業カリキュラムを構築すると共にそこで用いるテキストの作成を行い、平成28年度にアパレルCAD関連の授業で使用して、授業を展開した。 本稿では、構築したアパレルCAD関連科目の授業カリキュラム及びテキストの概要、受講学生から得たアンケート調査結果について報告した。 末弘由佳理、池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3. 改訂版「基礎縫い」デジタル教材	共	2017年10月	生活環境学研究 Vol. 5, 武庫川女子大学 pp. 56-59 (2017)	被服教育のデジタル教材として、学生に分かりやすく予習・復習にも役立つ被服構成学分野における「基礎縫い」に関するデジタル教材を平成24～25年度にかけて作成した。作成した教材に対する中学校「家庭科」教員からの意見を基に、平成27年度に同デジタル教材の改訂版を作成するに至った。 本稿では、旧「基礎縫い」デジタル教材からの改訂箇所について報告した。 末弘由佳理、本田クミ、大西かおり、中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4. 被服教育における「基礎縫い」デジタル教材の効果（査読付）	共	2016年7月	武庫川女子大学情報教育センター紀要2015 p. 1-7 (2016)	被服構成学実習関連科目を履修する学生の学習環境を整備する目的で、本学の学習支援システムμ Camを活用し、平成25年度、そのツールを利用して、課外の予習・復習にも役立つ被服構成学分野における「基礎縫い」デジタル教材を作成した。本稿では、平成25～27年度の3年分の受講後アンケート結果より、デジタル教材は学生の需要が高く、理解度が高かったこと、また、作品の完成度が上がったことから、学生にとって有用な教材であることを明らかにしている。 末弘由佳理、本田クミ、大西かおり、中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5. 布の‘しっとり感’に関する研究	単	2016年3月	衣笠繊維研究所報告2015 pp. 22-28 (2016)	衣笠繊維研究所より、平成27年度「繊維学術賞」を授与された。これまで継続的に取り組んできた、布のしっとり感に関して研究した内容に対しての表彰であり、これまでの研究成果及び今後の展望を報告の形でまとめたものである。
6. アパレルCADによる子供原型の半自動作図の提案— 婦人原型から子供原型への展開 —（査読付）	共	2016年10月	生活環境学研究 Vol. 4, 武庫川女子大学 pp. 12-21 (2016)	身頃原型の作図法は、子供用と婦人用とは、理論的には同様であるが、バストサイズから各部の寸法を算出する計算式には違いがある。本研究では、アパレルCADシステムに搭載される自動作図の婦人原型から部分的に修正を加えて子供原型に展開する作図法「半自動作図」を考案した。原型を作図したい子供バストサイズから8cmマイナスしたバストサイズで作図した婦人原型からの修正は、変更箇所を最小限に収めることが可能であった。子供原型、婦人原型をそれぞれ作図する上での算出式の差を考慮し、子供原型に展開するための移動量の理論値を導くことができた。 末弘由佳理、池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
7. 2014「げんべい」ビーチサンダルデザインコンテスト in 西宮阪急—武庫川女子大学×げんべい商店 コラボレーション企画—	共	2014年9月	生活環境学研究 Vol. 2, 武庫川女子大学 pp. 42-45 (2014)	西宮阪急百貨店より依頼を受け、ビーチサンダルデザインコンテストに武庫川女子大学の学生が応募し、その指導を担当した。投票の結果、上位3名の作品が商品化され、2014年3月より、2014年夏物として西宮阪急で販売された。 本稿はこれらの概要を記したものである。 末弘由佳理、池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
8. 被服教育における「基礎縫い」デジタル教材の開発	共	2014年9月	生活環境学研究 Vol. 2, 武庫川女子大学 pp. 38-41 (2014)	小・中・高等学校の学習要領の変遷や既製服時代を生きる現代の衣服事情等により昨今の大学生は被服製作における体験不足が目立つ。苦手意識の克服等、学生の一助となる教材として、縫製技術の基礎となるテクニック（20種類）についてデジタル教材（動画、音声、説明文、写真およびイラスト含む）を作成し、武庫川女子大学の学習支援システムμ Camにアップし、e-Learning教材として活用した。 その内容及びアンケート調査によって明らかになった教材の効果について報告したものである。 末弘由佳理、本田クミ、大西かおり、中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
9. 密度が異なる極細繊維インターロックのしっとり感に対する日中比較（査読付）	共	2014年4月	Journal of Textile Engineering Vol. 60 No. 2 pp. 35-40 (2014)	布のしっとり感評価に関して、日本人と香港在住の中国人との差の有無を検討することを目的とし、ポリエステルとナイロンの複合繊維からなる極細分割

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
10. デジタル教材を活用した被服教育	単	2014年3月	大学教育と情報 JUICE Journal 2013年度 No.4 pp.18-20 (2014)	繊維の複合糸、両面編みで密度の異なる編物を試料として検討した。力学量と「しっとり」の関係より、香港在住の中国人学生被験者は、曲げ剛性、曲げヒステリシス、せん断剛性、せん断ヒステリシスの値が小さい布ほど「しっとり」の感覚が強い、すなわち、せん断・曲げやわらかい編布に対して「しっとり」を強く感じている。日本人学生被験者は、平均摩擦係数、曲げ剛性、せん断剛性、せん断ヒステリシス、通気抵抗の値が大きいほど「しっとり」が強い、すなわち、表面に摩擦抵抗があり、せん断・曲げにおいてかたく、通気性の低い編布ほど、強い「しっとり」感をもたらした。 末弘由佳理、坂本有璃子、鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
11. 布の風合い「しっとり」と“Baby's skin”との類似性(査読付)	共	2013年7月	Journal of Textile Engineering Vol.59 No.3 pp.51-57 (2013)	武庫川女子大学では、教員の授業と学生の学習活動を活性化させるため、電子教材作成ツールMmoa (モア: Mukogawa Multimedia Original Annotation) および学習支援システムμCam (ミューキャン) を活用し、動画を含む教育用コンテンツのデジタル教材開発に取り組んでいる。本稿ではMmoaを利用して作成した課外の予習・復習にも役立つ被服構成学分野における製図教材を紹介している。
12. 被服教育におけるドラフティング電子教材の開発	共	2013年11月	武庫川女子大学情報教育センター紀要2012 p.18-23 (2013)	日本語を母国語としない人々に布のしっとり感を理解してもらうためには、「しっとり」という日本語が表す感覚を正確に伝えるための訳語を見出すことが必要である。香港在住の中国人学生を対象として、「しっとり」の説明語に“Baby's skin”という言葉を用いた。これまで行ってきた布のしっとり感に関する研究を基に、日本の被験者が「しっとり」を感じた布7枚を試料として、正規化順位法により官能評価を行った。その結果、「しっとり」の特徴を示す感性語である「なめらか」、「つるつる」、「冷たい」との間に高い相関があり、また、「しっとり」と“Baby's skin”の感覚の強い試料同士を比較した結果、有意差は得られなかった。香港在住の中国人学生が評価する布の“Baby's skin”と日本人学生が評価した布の「しっとり」は、近似した順位となり、類似した感覚をイメージできる可能性がわかった。 末弘由佳理、坂本有璃子、鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
13. 極細分割繊維からなるインターロックのしっとり感に及ぼす編目密度の影響(査読付)	共	2012年9月	Journal of Textile Engineering Vol.58 No.4 pp.49-56 (2012)	武庫川女子大学では、教員の授業と学生の学習活動を活性化させるため電子教材作成ツールMmoa (モア) を活用し、動画を含む教育用コンテンツの電子教材開発に取り組んでいる。平成23年度、そのツールを利用して、学生にわかりやすく課外の予習・復習にも役立つ被服構成学分野における製図e-ラーニング教材を作成した。 受講後のアンケートから、これまでの一斉指導にのみ学習と比較して、学生の理解度が向上した事実を報告した内容である。 末弘由佳理、岡田由紀子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
14. 学位論文「布の風合いにおける「しっとり感」の評価に関する研究」付:シルエットとの関係の確立『総合的な着心地』の新提案を目指して	単	2012年3月	日本家政学会被服構成学会誌 第33号 pp.20-21	ポリエステルとナイロンの極細分割繊維の糸から作製された両面編で密度の異なる編物を試料として、密度の違いが「しっとり」の感覚に与える影響を検討した。密度が高い編布に対して「しっとり」が強く感じられた。試料間に有意な差が生じた際の密度差は最小で1.49course/cmであった。平均摩擦係数MIU、通気抵抗の値が大きい程「しっとり」が強い、すなわち、表面に摩擦抵抗があり、通気性の低い編布程、強いしっとり感をもたらした。一対比較法による布の触感評価において、「しっとり」をより強く感じる布は、同時に「あたたかい」においても強い感覚が得られ、関係するパラメーターは通気抵抗である。被験者にとって編布のしっとり感は「好き」な触感である。 末弘由佳理、坂本有璃子、鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
15. 布の風合いにおける「しっとり感」の評価に関する研究(査読付)	単	2011年09月	繊維製品消費科学会誌 Vol.52 No.9 pp.564-570 (2011)	博士論文「布の風合いにおける「しっとり感」の評価に関する研究」の内容を研究解説として書き下したものである。
16. Objective evaluation of artificial skin	共	2011年03月	Textile Research Journal	フェイクファーの表面を指で撫でる際の摩擦抵抗は

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
cial furs for tactile comfort (査読付)			nal, Vol.81(4), pp. 42 9-436 (2010)	, 触覚の快適さに重要である。表面の毛に対する抵抗を評価するための装置が開発し、KES-SE表面試験機に取り付けて測定することが可能となった。官能評価は、水平方向の抵抗値 (FH) となめらかさ、快適さと「しっとり」との関係を見つけるために実施した。フェイクファーにおける「しっとり感」においては毛の動き易いものがしっとりと感じ、毛の動き易さを裏付ける物性値として、水平方向の抵抗値 (FH) はファーの移動に関連があり、ファーの触覚を測定する上で指標の1つにすることができる。 田中由佳理, 菅森輝行, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
17. カクテルドレス「aim high」	単	2010年9月	(武庫川女子大学生生活環境学部生活環境学科) 学科年次報告2010, p. 19	第78回NDKファッションショーへの出品作品の概要、制作過程をまとめたものである
18. 食育ファッションショー「'09 食博覧会・大阪」	共	2010年6月	(武庫川女子大学生生活環境学部生活環境学科) 学科情報誌2009, p. 10	2009年5月に開催された食の祭典「'09食博覧会・大阪」において、衣生活分野からのアプローチにより食育を学ぶことを目的として、「食育ファッションショー」を試みた。武庫川女子大学生生活環境学科の学生が中心となり、企画、デザイン・制作を行い、モデルやアナウンスも全て学生(総勢47名)が担当した。3回公演は全て満席となり、児童・生徒に食とは異なる分野からの食育がアピールできた。又、取り組んだ本学の学生にとって、企画を一から担うことは有意義な経験になったと確信する。 本田クミ, 寺嶋愛, 末弘由佳理, 中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
19. Measurement of Skin touch feel for Fabric "Shittori" based on the thermal transfer	共	2010年11月	The Textile Institute Centenary Conference Proceedings, pp.1-12	日本語の「しっとり」は化粧品を皮膚に塗布した際に一般的に用いられる言葉である。この感覚は消費者にとって快適で好ましいものとして認められており、布における「しっとり」は、滑らかで、あたたかくてやわらかいものであることが分かっている。KES-Fシステムを用いて物性を測定し、更に測色計を用いて色の測定を行った。布の触感評価は色の影響がゼロではないが、触覚によるものが大きいことが分かった。より強い「しっとり」知覚は、最大熱流束 (qmax) の値が小さく接触冷温感があたたかいこと、摩擦係数及び圧縮エネルギーの値が大きいことと相関があった。中でも、「しっとり」にとって最も重要なパラメータは最大熱流束 (qmax) であった。 鋤柄佐千子, 田中由佳理, 与倉弘子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
20. スプレーによる噴霧が人の感覚や布の熱伝達機構に及ぼす影響 (査読付)	共	2010年06月	デサントスポーツ科学, Vol. 31, pp.12-21 (2010)	スプレー (ジメチルエーテル (DME), 水, エタノールの配合量を変えた数種) を布にかけた時の冷却効果について蒸発潜熱と衝突噴流による冷却の要因を明確にし、衣服内の温度制御に用いる可能性をみつける目的で実験を行った。 噴霧直後の急激な温度低下において、初期低下には、DMEの有無が大きく影響した。噴霧後40~80秒経た気流が定常状態に近くなった状態で、エタノールと水の配合率と布からの平均蒸発速度 (W) の関係をニュートンのクーリングの法則より推定した結果、綿試料ではエタノールの配合率が高くなるほどWは大きくなり、ポリエステル試料では逆の傾向が得られた。すなわち、この熱移動は、布の水分量の影響が大きく、また皮膚にスプレーした1分後の溶剤の蒸発と関係が深いこともわかった。 鋤柄佐千子, 田中由佳理 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
21. 布のしっとり感評価に及ぼす視覚と触覚の影響 (査読付)	共	2010年01月	Sen'i Gakkaishi, Vol. 66, No. 1, pp. 7-14 (2010)	布の「しっとり感」を判断する際に、視覚情報から入る色の影響がどのように影響するかを検討することを目的とした。同組成で色違いの試料を用い、官能評価を行った結果、同組成にも関わらず試料間の「しっとり感」に有意差が見られた。色がしっとりの感知に影響すると思われるが、布表面の毛羽の方向が変化しやすい布において、試料間の差が大きいことから色のみではなく毛の方向性が触診の際に影響を与えるのではないかと考察する。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
22. ウェディングドレス「Forever and Ever」	単	2009年9月	(武庫川女子大学生生活環境学部生活環境学科) 学科情報誌2009, p. 11	第77回NDKファッションショーへの出品作品の概要、制作過程をまとめたものである。
23. Coolness and sensation of comfort produced using aerosol spray	共	2009年12月	Journal of Textile Engineering Vol. 55 No. 6	エアゾールスプレー (配合物: 水・エタノール) を肌に噴霧した時、冷たさを覚えるが、ここではその

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ay (査読付)			pp. 163-169 (2009)	感覚における「心地よい冷たさ」と「しっとり感」について検討を行った。物性値として、熱板にスプレーを噴霧した際のヒートロス及び表面温度を測定した。また官能検査においては、スプレー直後と1分後の「冷たさ」「心地よさ」、1分後の「しっとり感」を質問し、同時にサーモグラフィを用いて皮膚表面の温度を測定した。瞬時の冷たさ及び1分後の冷たさにおいて感覚が強い試料は水を多く含むものであったが、「心地よさ」の感覚は低かった。しっとり感においては季節により結果が異なり、夏よりも春の方が水分の多い試料において「しっとり」が強く感じられた。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
24. The relations of vision and tactile sensation for “shittori” characteristic of fabrics.	共	2009年09月	Proceedings of the 38th Textile Research Symposium at Mt. Fuji (2009), pp.195-197	布の「しっとり感」における視覚と触覚の影響を明らかにすることを目的とした。「しっとり感」を触診により判断する際、視覚よりも触覚によるものの方が大きいことが分かった。また、布表面に毛羽を有する布は「しっとり感」が強いと先行研究で分かっているが、フェイクファーにおける「しっとり感」においては毛の動き易いものがしっとりと感じ、毛の動き易さを裏付ける物性値として、水平方向の抵抗が関係することが明らかになった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
25. Cool feeling produced by aerosol spray and its application to fabrics	共	2008年08月	Proceedings of the 37th Textile Research Symposium in Daegu(2008), Textile Machinery Society of Japan, pp.149-153	エアゾールスプレーを肌に噴霧した時、冷たさを覚えるが、ここではその感覚における「心地よい冷たさ」と「しっとり感」について検討を行った。物性値として、熱板にスプレーを噴霧した際のヒートロス、及び、表面温度を測定した。また官能検査においては、スプレー直後と1分後の「冷たさ」「心地よさ」、1分後の「しっとり感」を質問し、同時にサーモグラフィを用いて皮膚表面の温度を測定した。又、パンティーストッキングの上からスプレーを噴霧した際の官能検査も実施した。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
26. Evaluation of “Shittori” Characteristic for Fabrics (査読付)	共	2008年06月	Journal of Textile Engineering Vol. 54 No. 3 pp. 75-81 (2008)	しっとり感をより強く感じる布は、摩擦係数が小さく滑らかな表面を持つ布であり、糸が細く、織密度が高いもの、最大熱流量qmaxの値が小さいもの、圧縮仕事量、曲げヒステリシス、厚さの値が大きいものであることが分かった。また、美容用品のように水分率が高いものにおいてしっとり感が高いという結果は得られず、美容用品と布との「しっとり」のは中身は異なることが分かった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
27. ウェディングドレス「A Happy Twinkle」	単	2008年03月	夙川学院短期大学研究紀要第37号 pp. 49-51	第75回NDKファッションショーへの出品作品の概要、制作過程をまとめたものである。
28. Hand Evaluation for “Shittori” Characteristic of Fabrics	共	2007年8月	Proceedings of the 4th International Symposium for Material & Kansei in Textiles - Fashion, Y. K. D Joint Symposium 2007 Committees, pp. 82-87	触覚の一つに「しっとり」という感覚がある。布の風合いにおけるしっとり感において、主観・客観的評価から、特性値化するための指針を明確化することを目的とした。しっとり感をより強く感じる布は、摩擦係数が小さく滑らかな表面を持つ布であり、糸が細く、織密度が高いもの、最大熱流量qmaxの値が小さいもの、圧縮仕事量、曲げヒステリシス、厚さの値が大きいものであることが分かった。また、布表面に細い毛羽のある布において、しっとり感が強く感じられた。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
29. Hand Evaluation for “Shittori” Characteristic of Fabrics	共	2007年8月	Proceedings of the 4th International Symposium for Material & Kansei in Textiles - Fashion, Y. K. D Joint Symposium 2007 Committees, pp. 82-87	触覚の一つに「しっとり」という感覚がある。布の風合いにおけるしっとり感において、主観・客観的評価から、特性値化するための指針を明確化することを目的とした。しっとり感をより強く感じる布は、摩擦係数が小さく滑らかな表面を持つ布であり、糸が細く、織密度が高いもの、最大熱流量qmaxの値が小さいもの、圧縮仕事量、曲げヒステリシス、厚さの値が大きいものであることが分かった。また、布表面に細い毛羽のある布において、しっとり感が強く感じられた。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
30. Hand Evaluation for “Shittori” Characteristic of Fabrics	共	2007年08月	Proceedings of the 36th Textile Research Symposium at Mt. Fuji (2007) p. 191-194	布の「しっとり感」は布のやわらかさやあたたかさそれぞれの感覚が強いものにおいて強い感覚を抱き、これらの感覚との関係が深いことが官能検査の結果から分かった。化粧品における「しっとり感」は保湿と密接な関係があるが、布においては保湿とは関係がないことが水分率の測定から明らかになり、

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
31. 被服構成学におけるPersonal Computer 活用の研究 (第7報) - オーバー・ブラウス- オーバー・ブラウス中心に -	共	2007年03月	大阪樟蔭女子大学 (学芸学部) 論集 第44号 p. 109-120	繊維の細さだけではなく糸の細いもの、更には繊維表面に毛羽を有する布が「しっとり」をより強く感じるようになった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
32. ウェディングドレス 「Coming Up Roses!」	単	2007年03月	夙川学院短期大学研究紀要第36号 (芸術・デザイン編) pp. 1-3	被服構成学教育において、教育界、アパレル産業界などに卒業生を送り込むためには、コンピュータとのかかわりは不可欠なものとなっている。特に衣服設計の面では図形処理の基本的な知識は勿論のこと、アパレル工学の学習も要求される時代となっている。さらに近年はファッション界における多様化、個性化、高級化などに対する対応、消費者ニーズへの対応による価値観の変化により、アパレルCADの活用はさらに重要となっている。今回はすでに発表した胴部原型、袖部原型及び基本型ブラウスに基き、体型の欠点をカバーし、補正が少なく、多くの人に適合し、美しく着やすい服という諸点を前提として、短時間で作図できるオーバー・ブラウスの自動作図プログラムに関する内容である。 小田明美, 定延久美子, 田中由佳理, 日下英子, 杉本樹里 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
33. 高等学校家庭科における生徒の個性を生かす被服製作教材の開発 (査読付)	単	2007年03月	奈良女子大学家政学会家政学研究 Vol. 53 No. 2 pp. 63-70	第74回NDKファッションショーへの出品作品の概要、制作過程をまとめたものである。
34. 縫目強さに及ぼす縫目形状と縫目間隔の影響 (査読付)	単	2006年03月	夙川学院短期大学研究紀要第33号 (科学・技術編) pp. 13-36	いわゆる学習困難校と言われる高等学校において、その生徒の個性を生かし、又、生徒の実態に即した内容の必要性から、「家庭一般・被服製作実習」における教材開発を試みたことに関する論文である。被服製作実習の目的を、ミシン操作を習得すること、物の起源や成り立ちを知ること、学習の喜びを味わうこと、これら3つとした。4年間にわたる研究の中で、改良を加え、実際に指導を行い、作り上げた教材である。実技試験の結果や生徒の反応等から、上記3つの目的を果たす題材として有効であることが確認できた。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 布の風合い' しっとり感' に関する研究	単	2017年5月27日	公益財団法人 衣笠繊維研究所 平成29年度学術講演会	縫目強度に関する研究の多くは、縫目の方向を布のたて又はよこと一致させ、荷重をかけた場合のものが大部分である。実際の衣服の縫製においては、立体を形成する上で、縫目線は曲線であるものが多く、ある角度をもって折れ曲がっている場合もある。ここでは種々の縫目形状における引張り破壊強度を測定し、破壊挙動において縫目線が曲がっている場合と折れ曲がっている場合について実験的に検討した。
2. 学会発表				
1. Influence of the brand name and the price on evaluating in "shittori" for baby's underwear	共	2017年9月14日	45th Textile Research Symposium 2017 Book of Abstracts of The 45th Textile Research Symposium 2017, p. 77	衣笠繊維研究所より、平成27年度「繊維学術賞」を授与された。記念講演として、受賞研究の内容で講演を行った。内容は、これまで継続的に取り組んできた、布のしっとり感に関して研究した内容に対しての表彰であり、これまでの研究成果及び今後の展望を報告の形でまとめたものである。
2. 新生児肌着のしっとり感とブランド及び価格との関係	共	2017年5月28日	日本家政学会第69回大会 日本家政学会第69回大会研究発表要旨集p. 145	末弘由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
				ブランド名と価格を明示して新生児肌着の触感評価を行い、ブランド名、価格が触覚に与える影響を検討することを目的とする。日本の子供服ハイブランド2社の新生児肌着、子育て経験者に対する使用した新生児肌着調査の結果、上位3種、オンラインショップ売れ筋ランキング上位7種の中で最も「しっとり」の強い試料1種の計6種を試料とした。順位法により、「しっとり」「肌触りのよさ」「やわらかさ」「あたたかさ」「なめらかさ」「購入」「厚さ」について官能検査を実施した。ハイブランド2社の新生児肌着は全ての項目において、非開示の評価よりも順位が上昇した。ハイブランドの肌着において、1社は「購入」、もう1社は「あたたかさ」「なめらかさ」で開示・非開示間の順位に、「しっとり」においては、ハイブランド以外の肌着1種に有意差が生じた。 末弘由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
3. アパレルCADを用いた半自動作図の提案	共	2017年2月15日	第1回武庫川女子大学研究成果の社会還元促進に関する発表会 pp. 9-16	アパレルCADシステムに搭載される自動作図の婦人原型から部分的に修正を加えて子供原型に展開する作図法「半自動作図」を考案した。自動作図による婦人原型のバストサイズを作図したい子供原型サイズのバストから調整したものを基にして、修正展開することで近似的な子供原型を作成することができた。その調整寸法は、作図したい子供サイズから8cmマイナスしたバストサイズで作図した婦人原型であり、変更箇所を最小限に収めることが可能であった。子供原型、婦人原型をそれぞれ作図する上での算出式の差を考慮し、子供原型に展開するための移動量の理論値を導くことができた。 末弘由佳理、池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4. 被服教育における「基礎縫い」デジタル教材の開発とその効果	共	2016年9月	公益社団法人私立大学情報教育協会 平成28年度 教育改革ICT戦略大会 平成28年度 教育改革ICT戦略大会資料p. 210-211	縫製技術の基礎となるテクニックについてデジタル教材の学習効果を明らかにすることを目的として、被服構成学実習の基礎科目を履修学生をを対象に基礎縫いの課題に対する補助教材（教科書、完成見本、デジタル教材）の使用実態及び理解度に関するアンケートを実施した。また、作品の完成度の変化を明らかにするため、4年分（デジタル教材有無各2ヶ年）の作品採点結果を比較した。補助教材の使用数比較では、大多数の縫い方に関して3種類すべてを使用した学生が多かった。第一作品の採点において、デジタル教材の有無の間に1%水準の有意な差が生じた。 末弘由佳理、本田クミ、大西かおり、中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5. 編布を用いた新生児肌着のしっとり感	共	2016年5月	日本家政学会第68回大会 日本家政学会第68回大会研究発表要旨集p. 95	日本の子供服ハイブランドである2社の新生児肌着、子育て経験者評価による上位3種、オンラインショップ売れ筋ランキング上位7種の中で最も「しっとり」の強い1種 の計6種を試料とした。女子大生20名を対象に、順位法により「しっとり」「肌触りのよさ」「やわらかさ」「あたたかさ」「なめらかさ」について官能検査を実施した。KESシステムにより表面特性（表面摩擦抵抗、摩擦係数）、圧縮特性、曲げ特性、せん断特性、引っ張り特性、最大熱流束qmax、通気抵抗を測定した。官能検査の結果、順位に1%水準の有意差が認められた。最も「しっとり」を強く感じた試料は「なめらかさ」「やわらかさ」「肌触りの良さ」においても強い感覚を有していた。物性との関係は、圧縮仕事量の値が高いほど、「しっとり」が強く、圧縮やわらかい肌着が「しっとり」を強く備えているという結果であった。 末弘由佳理、鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
6. アパレルCADによる半自動作図の提案— 婦人原型から子供原型への展開 —	共	2016年10月30日	日本家政学会関西支部第38回研究発表会 研究発表要旨集2016年度p. 10	CADシステム搭載の自動作図機能による婦人身頃原型をベースに用いて、部分的に修正を加えて子供原型を作成する「半自動作図」の可能性について検証を行った。子供原型のバストに定寸法を加えた寸法で婦人原型を作図することで、同一寸法で作図できる部分が存在する。X軸方向の割出し式で作図する部分について婦人原型のバスト寸法を調整する方法を2点（調整寸法をプラス4cm、マイナス8cm）考案した。展開する際に、修正箇所が最も少ないのは、マイナス8cmの方であった。子供・婦人原型の各箇所の計算式を用いて、移動量の算出を試みた結果、必要な箇所全ての移動量の理論値を導くことができ、婦人原型をベースに子供原型へ展開する「半自動作図」の可能性が示唆された。 末弘由佳理、池田仁美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
7. 被服構成学実習におけるデジタル教材活用の効果—「基礎縫い」を中心に—	共	2015年10月	日本家政学会関西支部第37回研究発表会 研究発表要旨集2015年度p. 21	縫製技術の基礎テクニックについてデジタル教材の学習効果を明らかにすることを目的とした。被服構成学実習の基礎科目を履修した学生計301名を対象に基礎縫いの課題に対する補助教材（教科書、完成見本、デジタル教材）の使用実態及び理解度に関するアンケートを実施した。また、作品2点の完成度の変化を明らかにするため、4年分（デジタル教材有無各2ヶ年）の作品採点結果を比較した。アンケート結果から、受講前に50%以上の学生が「縫うことができない」と回答したテクニックに関してデジタル教材の使用率が高く、補助教材の使用では、大多数の縫い方に関して3種類すべてを使用した学生が多かった。また、4ヶ年の作品比較では、デジタル教材を使用した年度において修正が必要な箇所が減少したことから一定の効果があったことが示唆される。 本田クミ、末弘由佳理、大西かおり、中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
8. 新生児肌着のしっとり感に関する	共	2015年10月	日本家政学会関西支部	新生児肌着において「しっとり」という触感は重要

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
研究				
9. 被服教育における電子教材の開発 —原型製図を中心に—	共	2013年9月	第37回研究発表会 研究発表要旨集2015年 度p. 12 公益社団法人私立大学 情報教育協会 平成25年度 教育改革IC T戦略大会 平成25年度 教育改革IC T戦略大会資料p. 240-24 1	な感覚であるか、また、どの物性が「しっとり」に 強く関わっているかを明らかにすることを目的とし た。オンラインショップ楽天市場に、新生児短肌着 の売れ筋人気ランキングにおいての上位7種を試料と した。順位法により、「しっとり」「肌触りのよさ 」「やわらかさ」「あたたかさ」「なめらかさ」に ついて感覚の強い順に並べた。次に、KESシステムに より、風合いに関わる16個の物理量及び最大熱流束q max、通気抵抗を測定した。官能検査の結果、全項目 において順位に有意差が認められた。最も「しと り」を強く感じた試料は、「肌触りのよさ」「やわ らかさ」「あたたかさ」「なめらかさ」においても 強い感覚が得られた。物性との関係はせん断かたく、 曲げやわらかく、編目密度の高い肌着において、「 しっとり」の感覚が強く得られた。 末弘由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
10. 日本語表現による布の風合い「し っとり」の英語表現の選定	共	2013年5月	日本家政学会第65回大 会 日本家政学会第65回大 会研究発表要旨集p. 161	武庫川女子大学では、教員の授業と学生の学習活動 を活性化させるため、電子教材作成ツールMmoa (モ ア) を活用し、動画を含む教育用コンテンツのデジ タル教材開発に取り組んでいる。平成23年度、その ツールを利用して、学生にわかりやすく課外の予習 ・復習にも役立つ被服構成学分野における製図教材 を作成した。 作成した教材を身頃原型製図を中心に紹介し、e-Lea rningとして使用した本教材の使用後のアンケートか ら、授業だけでは学生の理解が難しかった学習内容 を作成したe-Learningを使用することで学生の理解 が上がったことを報告したものである。 末弘由佳理, 岡田由紀子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
11. 被服構成学実習におけるデジタル 教材活用に関する研究 —「基礎 縫い」を中心に—	共	2013年10月	日本家政学会関西支部 第35回研究発表会 研究発表要旨集2013年 度p. 19	外国人に日本語である「しっとり」の感覚を正確に 伝える語を提案することを目指して、まず、「Baby 's skinから連想する形容語」を収集し、15語を選 定した。次にそれらの語を用いて“Baby's skin” と「しっとり」の関係についてアンケート調査を行 った。触感評価においては、表面に毛羽を有する布7 種を用いて、“Baby's skin”と「しっとり」に分 け、順位法を用いた官能検査を実施した。用語に関 する調査の結果、15語中9語に関しては“Baby's sk in”と「しっとり」の間に有意差は見られなかった 。布の官能検査では、最も触感覚の強い布同士の間 に有意差はなく、“Baby's skin”と「しっとり」 は布の触感評価をする際の感性語として類似してい るものとの判断が可能であった。 末弘由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
12. ドラフティングにおけるデジタル 教材の開発とその効果	単	2012年10月	日本家政学会関西支部 第34回研究発表会 研究発表要旨集2012年 度p. 16	縫製技術の基礎となるテクニック（20種類）につい て反復学習が可能なデジタル教材（動画、音声、説 明文、写真およびイラスト含む）を作成し、自主学 習において有効な教材であるかを明らかにすること を目的とした。アンケート結果から、受講前に50% 以上の学生が「縫うことができない」と回答した12 種類中「千鳥がけ」「ブランケットステッチ」「袋 縫い」「折り伏せ縫い」「流しまつり」「バイアス テープの裁ち方」「バイアス布の始末」「切りじつ け」の8種類に関しては、補助教材のうち「デジタル 教材」の理解度が最も高かった。これは、教科書や 完成見本のような活字や静止画などの情報だけでは なく、動画や音声も含まれているため、より理解し やすく自主学習に有効な教材であったと考えられる 。 本田クミ, 末弘由佳理、大西かおり、中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
13. ドラフティングにおけるデジタル	単	2011年08月	平成23年度被服構成学	高等学校の家庭科教育において、被服製作分野が含 まれていない「家庭基礎」を履修して大学に進学す る割合が約半数近い。大学の被服構成学を学習する 上で、体験不足などから初期段階でのつまづきが目 立つ現状がある。原型製図においても同様であり、 そのためパワーポイントを用いたデジタル製図教材 を開発し、学生アンケートより理解を促す効果が 高い教材であることを明らかにしたが、その教材を基 にして、各自が自分のペースで予習復習すること のできるe-Learning教材へと発展させた。学生ア ンケートより復習として役立つものであること、自 分のペースで学習することにより、理解が深まるこ とが確認できた。 なお、この発表は、日本家政学会関西支部若手優 秀発表賞を受賞した。 大学において、被服構成学を学ぶ初期段階として、

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
教材の開発（ポスター発表）			部会夏期セミナー 日本家政学会被服構成学 部会夏期セミナー要旨集p. 48	原型製図を扱うことが多いが、製図学習を進める際の教材として、パワーポイントを用いたデジタル教材を開発した。学習者対象のアンケート調査から、デジタル教材による製図学習は理解度が高く、又、その他の方法（板書による説明、教科書等からの解説）との比較においても約80%が「分かりやすい」と答え、デジタル教材は、学生の理解を促す効果が高い教材であることを明らかにした。また、現在制作中のe-ラーニング教材についても併せて紹介した。
14. ニットのしっとり感に及ぼす編目密度の影響	共	2011年05月	日本家政学会第63回大会 日本家政学会第63回大会研究発表要旨集p. 150	編目密度の異なるニットを試料として日本人と中国人を対象に、一対比較法により、「しっとり」「やわらかさ」「厚さ」「好み」について官能検査を実施した。日本人が最も「しっとりしない」と感じたのは、密度の最も低い試料であり、中国人においては密度が最も高い試料であった。「しっとり」と「好み」との関係は、日本人は最も「しっとり」と最も「好き」が同試料であったが、中国人が最も「しっとり」と答えた試料は「好み」においては中間に位置し、国による差が見られた。また、圧縮やわらかさとの関係が深い圧縮仕事量及び布の厚さについては、実際に厚い試料を薄いと感知し、薄い試料を厚いと感じるという数値とは異なる結果となった。 末弘由佳理, 坂本有璃子, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
15. 編み布の「しっとり感」に与える構造の影響	共	2011年05月	日本繊維機械学会第64回年次大会 日本繊維機械学会第64回年次大会研究発表論文文集p. 220-221	心地良い風合いをイメージさせる「しっとり」の要因を明確化することにより、布の風合い評価の新しい指標を日本のみならず諸外国においても確立することを目標にしている。本研究の試料として用いた編み布は、ループの密度や編み構造によって、表面のなめらかさが変化することが考えられる。そこで、編み構造や、表面のパイル形状などの異なる編み布を用いて「しっとり感」及び、関連する感性語を用いた官能検査を日本と香港の学生に対して行い、官能検査結果と物性値を分析することで、「しっとり感」の要因を明確化することを目的とした。分析結果より、表面に起毛や長いカットパイルなどの特徴を有している布において、ループパイルや短いカットパイルなどと比較し、しっとり感が強く感じられることがわかった。 坂本有璃子, 末弘由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
16. Measurement of Skin touch feel for Fabric “Shittori” based on the thermal transfer (ポスター発表)	共	2010年11月	The Textile Institute World Conference 2010, Manchester UK The Textile Institute Centenary Conference Proceedings, pp.1-12	日本語の「しっとり」は化粧品を皮膚に塗布した際に一般的に用いられる言葉である。この感覚は消費者にとって快適で好ましいものとして認められており、布における「しっとり」は、滑らかで、あたたかくてやわらかいものであることが分かっている。KES-Fシステムを用いて物性を測定し、更に測色計を用いて色の測定を行った。布の触感評価は色の影響がゼロではないが、触覚によるものが大きいことが分かった。より強い「しっとり」知覚は、最大熱流束 (qmax) の値が小さく接触冷温感があたたかいこと、摩擦係数及び圧縮エネルギーの値が大きいことと相関があった。中でも、「しっとり」にとって最も重要なパラメータは最大熱流束 (qmax) であった。 末弘由佳理, 鋤柄佐千子, 与倉弘子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
17. デジタル教材を用いた製図学習の効果	単	2010年10月	日本家政学会関西支部第32回研究発表会 研究発表要旨集2010年度p. 24	平成15年度施行の高等学校学習指導要領では、家庭科において「家庭基礎」が加わり、「家庭総合」「生活技術」の中から1科目を選択必須する形となった。「家庭基礎」には被服製作分野が含まれておらず、高等学校で被服製作を履修せずに被服系の学部・学科に入学している大学生も少なくないのが現状である。大学において、被服構成学を学ぶ初期段階として、原型製図を扱うことが多いが、製図学習を進める際の教材として、パワーポイントを用いたデジタル教材を開発し、学習者対象のアンケート調査から、デジタル教材による製図学習は理解度が高く、又、その他の方法（板書による説明、教科書等からの解説）との比較においても約70%が「分かりやすい」と答え、デジタル教材は、学生の理解を促す効果が高い教材であることを明らかにした。
18. フェイクファーのしっとり感評価	共	2010年05月	日本家政学会第62回大会 日本家政学会第62回大会研究発表要旨集p. 115	表面の毛の方向が容易に変化する、毛の動き易い布であるフェイクファーを試料として、一対比較法により、「しっとり」、「毛の動き易さ」、「なめらかさ」、「心地よさ」の4項目について官能検査を実施した。官能検査の結果、「しっとり」と高い相関関係を示した項目は「毛の動き易さ」と「心地よさ」であった。動き易い毛を有する場合、「しっとり

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
19. 衣服領域からの食の教育—食育ファッションショーの試み— (ポスター発表)	共	2010年05月	日本家政学会第62回大会 日本家政学会第62回大会研究発表要旨集p. 61	」の感覚が強くなり、また、「しっとり」の感覚は心地のよい感覚であることが明らかになった。「しっとり」は、表面摩擦の水平方向への抵抗値、温度変化微分値、圧縮仕事量、圧縮レジリエンスと関係が深く、水平方向への摩擦抵抗が大きく、接触冷感があたたかく、圧縮やわらかく、反発性が高くない感覚に対して「しっとり」の感覚が強く得られた。 末弘由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
20. 布のしっとり感における視覚・触覚の関係 (ポスター発表)	共	2009年11月	日本繊維機械学会第16回秋季セミナー『明日のタネ』 ポスター要旨集 pp. 77-78	2009年5月に開催された食の祭典「'09食博覧会・大阪」において、衣生活分野からのアプローチにより食育を学ぶことを目的として、「食育ファッションショー」を試みた。武庫川女子大学生生活環境学科の学生が中心となり、企画、デザイン・制作を行い、モデルやアナウンスも全て学生（総勢47名）が担当した。3回公演は全て満席となり、児童・生徒に食とは異なる分野からの食育がアピールできたと言える。この研究は、ショーの成果をまとめたものである。 本田クミ, 寺嶋愛, 末弘由佳理, 中尾時枝 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
21. The relations of vision and tactile sensation for “shittori” characteristic of fabrics. (ポスター発表)	共	2009年09月	The 38th Textile Research Symposium at Mt. Fuji EXTENDED ABSTRACTS OF THE 38th TEXTILE RESEARCH SYMPOSIUM AT MT. FUJI, P3	「しっとり」を強く感じる布を2種各6色計12種類、布に類似したカラーカードを試料とした。カラーカードによる視感評価では、くすみが強いほどしっとり感を強く感じる色であり、クラスター分析によってグループ分けした結果、色で表現される「しっとり」は「暗い」「くすんだ」「重い」の3つのイメージと同じクラスターに分類された。布試料における官能検査の結果、同組成色違いの布でありながら、有意差が生じたことから、触感には視覚情報（色）が影響していることが明らかになった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
22. 布のしっとり感における視覚・触覚の関係	共	2009年08月	日本家政学会第61回大会 日本家政学会第61回大会研究発表要旨集p. 141	布の「しっとり感」における視覚と触覚の影響を明らかにすることを目的とした。「しっとり感」を触診により判断する際、視覚よりも触覚によるものが大きいことが分かった。また、布表面に毛羽を有する布は「しっとり感」が強いと先行研究で分かっているが、フェイクファーにおける「しっとり感」においては毛の動き易いものがしっとりと感じ、毛の動き易さを裏付ける物性値として、水平方向の抵抗が関係することが明らかになった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
23. 噴霧に対する感覚の評価	共	2008年08月	第17回繊維連合研究発表会 第17回繊維連合研究発表会講演予稿集p. 99	布に対して抱く触感評価において、視覚が及ぼす影響を明らかにし、「しっとり」の感覚に及ぼす色の影響を明確化することを目的とした。同組成の布6色を試料とし、「やわらかい」「あたたかい」「しっとり」の3項目をそれぞれ一対比較法により、官能検査を行った。各試料の色においては、分光測色計を用いて、明度、色度、彩度を測色し、官能評価との関係を分析した。官能検査の結果、3項目全てにおいて、主効果で1%の有意差があり、触感には視覚情報（色）が影響していることが明らかになった。又、測色データにおいては、明度の値が大きい試料は「しっとり」を強く感じず、L*a*b*表色系によるc*の値が大きい試料は「しっとり」を強く感じるという結果が得られた。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
24. Cool feeling produced by aerosol spray and its application	共	2008年08月	The 37th Textile Research Symposium in Dae	エアゾールスプレー（配合物：水・エタノール）を肌に噴霧した時、冷たさを覚えるが、ここではその感覚における「心地よい冷たさ」と「しっとり感」について検討を行った。物性値として、熱板にスプレーを噴霧した際のヒートロス、及び、表面温度を測定した。また官能検査においては、スプレー直後と1分後の「冷たさ」「心地よさ」、1分後の「しっとり感」を質問し、同時にサーモグラフィーを用いて皮膚表面の温度を測定した。瞬時の冷たさ及び1分後の冷たさにおいて感覚が強い試料は水を多く含むものであったが、「心地よさ」の感覚は低かった。しっとり感においては春と夏とでは官能検査の結果が異なり、夏よりも春の方が水分の多い試料において「しっとり」が強く感じられた。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
to fabrics			gu EXTENDED ABSTRACTS OF THE 37th TEXTILE RESEARCH SYMPOSIUM AT MT. FUJI, 26	さ」と「しっとり感」について検討を行った。物性値として、熱板にスプレーを噴霧した際のヒートロス、及び、表面温度を測定した。また官能検査においては、スプレー直後と1分後の「冷たさ」「心地よさ」、1分後の「しっとり感」を質問し、同時にサーモグラフィを用いて皮膚表面の温度を測定した。又、バンティーストッキングの上からスプレーを噴霧した際の官能検査も実施した。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
25. 噴霧による冷温感覚の評価	共	2008年05月	日本家政学会第60回大会 日本家政学会第60回大会研究発表要旨集p. 194	エアゾールスプレー（配合物：水・エタノール）を肌に噴霧した時、冷たさを覚えるが、ここではその感覚における「心地よい冷たさ」と「しっとり感」について検討を行った。物性値として、熱板にスプレーを噴霧した際のヒートロス、及び、表面温度を測定した。また官能検査においては、スプレー直後と1分後の「冷たさ」「心地よさ」、1分後の「しっとり感」を質問し、同時にサーモグラフィを用いて皮膚表面の温度を測定した。瞬時の冷たさ及び1分後の冷たさにおいて感覚が強い試料は水を多く含むものであったが、「心地よさ」の感覚は低かった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
26. 客観評価を主にした布の「しっとり感」	共	2007年10月	繊維学会秋季研究発表 会 繊維学会予稿集 2007 62巻3号（秋季研究発表 会）	物性値として、最大熱流量が小さく、圧縮仕事量、厚さ、曲げヒステリシスの値が大きい試料が「しっとり」を強く感じる事が分かった。繊維物においては、糸が細く、織密度の高い試料が「しっとり」がより強く感じられ、組成だけではなく、構造との関係が深いことが推察される。又、布の「しっとり」は、化粧品における「しっとり」のキーワードである「保湿（＝水分のある状態）」とは異なることが明らかになった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
27. Hand Evaluation for "Shittori" Characteristic of Fabrics	共	2007年08月	The 4th International Symposium for Materi als & Kansei in Texti les-Fashion	触覚の一つに「しっとり」という感覚がある。布の風合いにおけるしっとり感において、主観・客観的評価から、特性値化するための指針を明確化することを目的とした。しっとり感をより強く感じる布は、摩擦係数が小さく滑らかな表面を持つ布であり、糸が細く、織密度が高いもの、最大熱流量qmaxの値が小さいもの、圧縮仕事量、曲げヒステリシス、厚さの値が大きいものであることが分かった。また、布表面に細い毛羽のある布において、しっとり感が強く感じられた。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
28. Hand Evaluation for "Shittori" Characteristic of Fabrics (ポスター発表)	共	2007年08月	The 36th Textile Rese arch Symposium at Mt. Fuji EXTENDED ABSTRACTS OF THE 36th TEXTILE RESEARCH SYMPOSIUM AT MT. FUJI, P7	布の「しっとり感」は布のやわらかさや温かさと関係が深いことが官能検査の結果から分かっている。化粧品における「しっとり感」は保湿と密接な関係があるが、布においては保湿とは関係がないことが水分率の測定から明らかになり、繊維の細さだけではなく糸の細いもの、更には繊維表面に毛羽を有する布が「しっとり」をより強く感じる事が明らかになった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
29. 手触りによる布のしっとり感評価	共	2007年05月	日本家政学会第59回大会 日本家政学会第59回大会研究発表要旨集p. 199	人間の触覚の一つに「しっとり」という感覚がある。一般的に我々は「しっとり」という言葉の認識はあるものの、特に布に対する評価においては、曖昧な言葉として認識される場合が多い。しかしながら、高付加価値な布の風合いを創り出す上で興味ある感覚であると考え。そこで布に対して抱く「しっとり」という感覚評価を主観・客観的に分析し、特性値化するための指針を明確化することを目的とした。官能評価の結果、繊維が細く、織密度が高いもの、又、最大熱流量qmaxの値が小さいもの、圧縮仕事量、曲げヒステリシス、厚さの値が大きいものを「しっとり」と強く感じる事が分かった。 田中由佳理, 鋤柄佐千子 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
30. 高等学校家庭科における教材開発－生徒の個性を生かす被服製作実習－	単	2006年05月	日本家政学会第58回大会 日本家政学会第58回大会研究発表要旨集p. 206	高等学校の類別化、小・中学校における既習内容の違いによる個人差、生活体験の不足等から、学習指導要領通りの内容実施が困難であること、又、過去の実施結果による反省点から、生徒の現状に即した新しい教材開発を考案することの重要性を感じた。対象となる生徒に合わせた教育目標を立て、提案した実習題材は、その教育目標を達成することが可能な題材として、有効であることが確認できた。
3. 総説				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1. 第83回NDKファッションショー	単	2015年9月	NDK日本デザイン協会	ショーテーマは「REACH FOR THE FUTURE 未来へ届け 復活の扉」である。 身頃はウエストを強調するため、巾広のウエストベルトを作成し、胸元から首ぐりに伸びるホルターネックとした。胸元にはたっぷりとしたドレープを表現するため、ニットを使用し、左右にタックを入れることで意図するドレープを表すことができた。また、スカートにおいてもドレープを表現するためにベースをサーキュラとし、レース2枚、ニット2枚の4枚重ねとし、それぞれにランダムなヘムラインを出し、動きを出した。 この作品は、第83回NDKファッションショーにおける入賞（奨励賞）作品である。
2. 第2回NDK会員作品展	単	2011年10月	第2回NDK会員作品展 （於：アートギャラリーAshiya）	出展した作品は、第79回NDKファッションショーに出品した作品である。 この作品は努力賞受賞作品である。
3. 第79回NDKファッションショー	単	2011年09月	日本デザイン文化協会 大阪支部	ショーテーマは「REACH FOR THE FUTURE 未来へ届け 復活の扉」である。 身頃はウエストを強調するため、巾広のウエストベルトを作成し、胸元から首ぐりに伸びるホルターネックとした。胸元にはたっぷりとしたドレープを表現するため、ニットを使用し、左右にタックを入れることで意図するドレープを表すことができた。また、スカートにおいてもドレープを表現するためにベースをサーキュラとし、レース2枚、ニット2枚の4枚重ねとし、それぞれにランダムなヘムラインを出し、動きを出した。 この作品は、第79回NDKファッションショーにおける入賞（努力賞）作品である。
4. 第1回NDK会員作品展	単	2010年10月	第1回NDK会員作品展 （於：アートギャラリーAshiya）	出展した作品は、第78回NDKファッションショーに出品した作品である。 この作品は努力賞受賞作品である。
5. 第1回NDK会員作品展	単	2010年10月	第1回NDK会員作品展 （於：アートギャラリーAshiya）	NDKファッションショー出品作品の展示を目的として、第1回展示会が開催された。 出展した作品は、第75回NDKファッションショーに出品した作品である。 この作品は努力賞受賞作品である。
6. 第78回NDKファッションショー	単	2010年09月	日本デザイン文化協会 大阪支部	ショーテーマは「Happy Moment～その瞬間を生きる～」である。 身頃は身体にフィットするビスチェ型とし、縦ラインの切り替えとした。それに対してスカートの形状をオブリークとし、8枚のパーツに分けることで、上衣から下衣に対して、斜め方向の動きを出した。スカート部のパーツ1枚置きにレースを裏打ちし、また、パーツの縦ラインをバイアステープで包むことで、各パーツを独立感のあるものとした。また、各パーツ裾の一部を長くすることで、全体としてギザギザの裾ラインを表現し、足元が淋しくなりがちなミニ丈において、それを補うデザインを心がけた。 この作品は、第78回NDKファッションショーにおける入賞（努力賞）作品である。
7. 第77回NDKファッションショー	単	2009年09月	日本デザイン文化協会 大阪支部	ショーテーマは「On Dramatic Departure～新たなる旅立ち～」である。 マーメイドラインを基本とし、バスト下から膝上はパターンを数パーツに分けて布を変化させ、レースを用いることで優美さを表現した。華奢な印象になりがちなマーメイドラインにおいて、トレーンを長くすることでバックスタイルを強調し、ボリューム感をもたせた。フィット感のある胴体に対して、トレーンにフリルを付けることでメリハリのあるデザインとした。
8. 第76回NDKファッションショー	単	2008年09月	日本デザイン文化協会 大阪支部	ショーテーマは「Everlasting Road～ファッションよ 永遠に～」である。 チェック柄の布は、方向を変えるだけで、様々なデザインを表現することができる。ここでは、白基調のタータンチェックに黒色の花を施した生地を使用した。シルエットはベルラインを基本に、デコルテはビスチェ、スカートは4枚接ぎのフレアとした。身頃はバイアス方向、スカートはたて方向と変化をつけたことで単調にならないように表現した。それぞれの裾にはワンウェイに畳んだプリーツを付け、スカートには、プリーツの上部にライトを浴びると輝くスパンコールのブレードを施した。また、同素材でバラソルを作成し、ボリューム感の少ない身頃に動きを与え、全体のバランスをとった。一昨年、昨年に引き続き、遊び心を取り入れた、新しいブライ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
9. 第75回NDKファッションショー	単	2007年09月	日本デザイン文化協会 大阪支部	ダルドレスの提案である。 この作品は、第76回NDKファッションショーにおける入賞（奨励賞）作品である。 ショーテーマは「Dearest Wish 想いをかたちに・・・」である。 チューリップの花を基調とし、コンセプトは花嫁の誓いとした。チューリップの花言葉は「永遠の愛情」であり、特に赤いチューリップにおいては「愛の告白」を意味する。 ドレスのシルエットは、ベルラインを基本とし、身頃はワンショルダーのビスチェ、スカートは花びらをかたどった巻きスカートとした。身頃、スカート共に端にフリルをつけ、更にラインストーンを施した。これらを施すことで、花びら一枚一枚の存在を強調することができたと言える。 昨年の作品に引き続き、遊び心を取り入れた、新しいブライダルドレスの提案である。
10. 第74回NDKファッションショー	単	2006年09月	日本デザイン文化協会 大阪支部	ショーテーマは「ファッションと蒼天のコラボレーション」である。 薔薇の花を基調とし、コンセプトは花嫁の願いとした。現在、多くのブライダルドレスがあるが、形においては基本スタイルのものがほとんどである。ここでは、従来あるブライダルドレスの形から逸脱したものを提案した。シルエットとしてベルラインを基本に、デコルテはビスチェ、スカートはバルーンとした。ボディに沿ったビスチェには薔薇の花をつけ、スカートと帽子にも同じ薔薇を散りばめた。土台にはピンクのサテンを、オーバースカートには薄ピンクのチュールレースを用い、ビスチェ、スカートの裾には下方に処理を施し、動きを出した。 遊び心を取り入れた、新しいブライダルドレスの提案である。 この作品は、第74回NDKファッションショーにおける入賞（努力賞）作品である。
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 若手研究（B） 継続	単	2016年	科学研究費	布の「しっとり」に関する素材物性を用いた評価尺度の構築
2. 若手研究（B） 継続	単	2015年	科学研究費	布の「しっとり」に関する素材物性を用いた評価尺度の構築
3. 若手研究（B） 新規	単	2013年	科学研究費	布の「しっとり」に関する素材物性を用いた評価尺度の構築
4. 若手研究（B） 継続	単	2012年	科学研究費	布の「しっとり」感に関する素材物性の客観評価
5. 若手研究（B） 継続	単	2011年	科学研究費	布の「しっとり」感に関する素材物性の客観評価
6. 若手研究（B） 新規	単	2010年	科学研究費	布の「しっとり」感に関する素材物性の客観評価
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2009年7月～現在	繊維学会			
2. 2007年10月～現在	日本繊維機械学会			
3. 2006年3月～現在	奈良女子大学家政学会			
4. 2006年1月～現在	日本デザイン文化協会			
5. 2005年4月～現在	日本家政学会			
6. 2005年4月～現在	日本繊維製品消費科学会			